

LaKeel

～これまでの歩みと目指す未来～

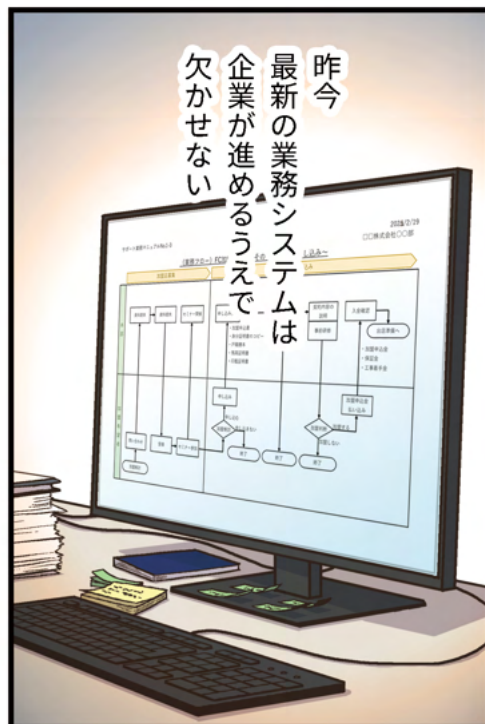
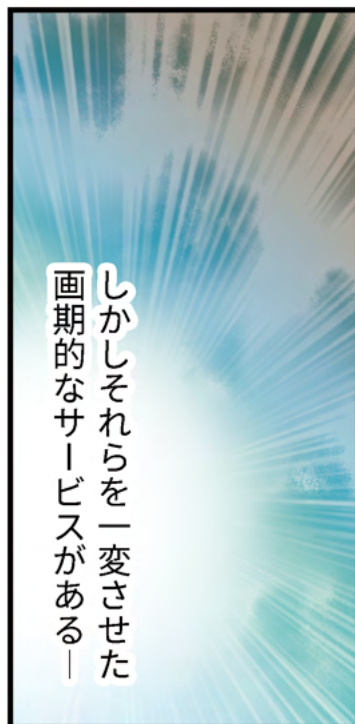
サステナブルソフトウェアを

切り拓いた男



株式会社ラキール
代表取締役社長
久保 努

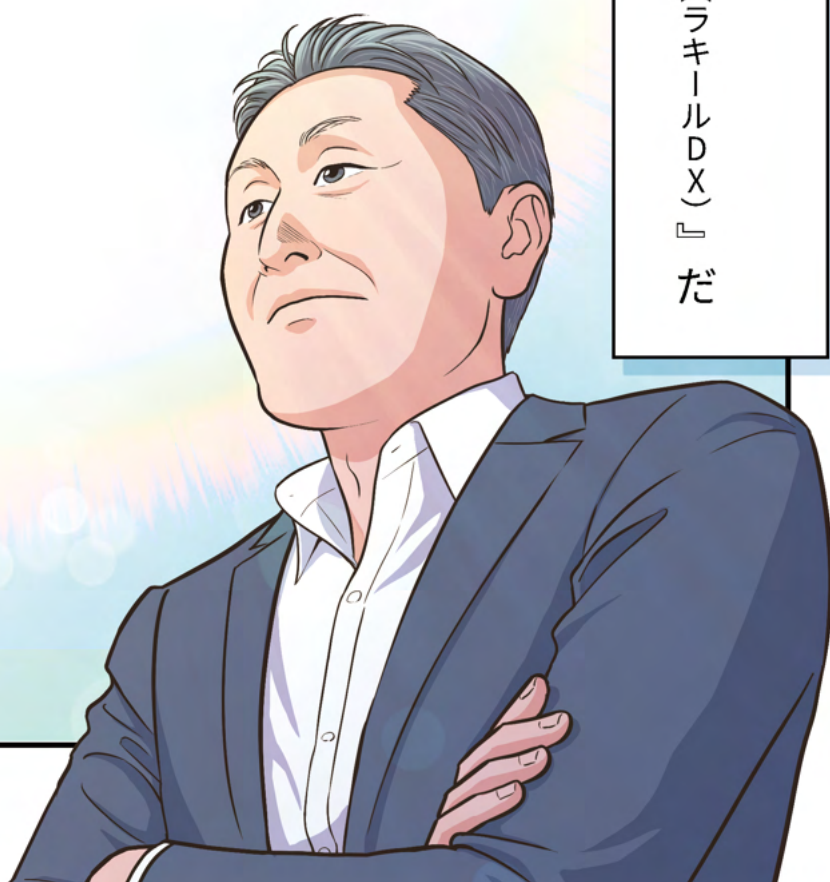




LaKeel DX

それが
『LaKeel DX（ラキールDX）』だ

これは
クラウド型デジタルビジネス
プラットフォーム
『LaKeel DX』の
開発に情熱をかけた
1人の男の物語である…





久保 努 (当時23歳)

大学の工学部で
電子機械を専攻していた久保は
日本IBM、三菱商事、
コスモ・エィティの
3社の合併企業である
株式会社エィ・エス・ティに
エンジニアとして入社
ソフトウェア開発を
幅広く請け負うSierとして
活動していた



その後
インドのバンガロールで
1年半近く滞在し
三菱商事のシステム開発を
行うこととなる



エィ・エス・ティの10年間で
ソフトウェアビジネスの基礎を
身につけた久保は
10人弱のベンチャー企業
株式会社イーシー・ワンに転職
創業期のメンバーとして
開発部門の責任者を
任されることとなる

イーシー・ワンで
新しい挑戦だ



数年後—

イーシー・ワンは
Java^{※1}を大企業向けに使用した
先駆的な存在となり
JASDAQ上場を実現
業務拡大のために中国の
市場に進出することになる

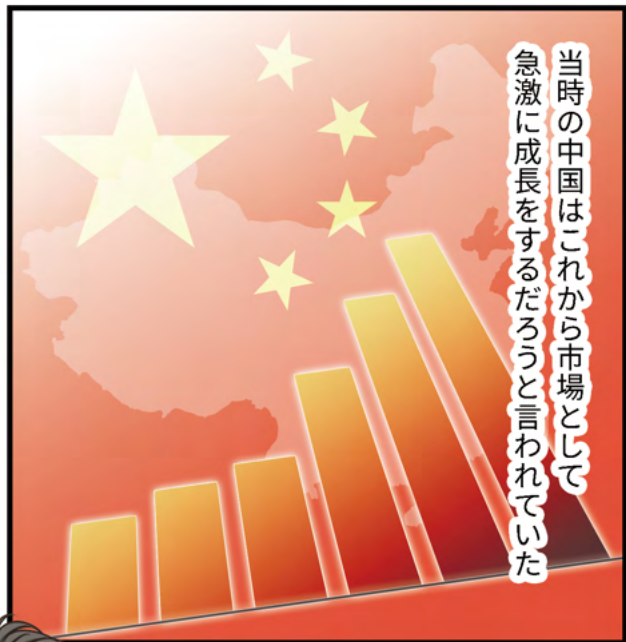
君にはインドでの
業務経験があるだろ

中国で子会社を作って
頑張っしてほしい

中国ですか…

ゴク…

当時の中国はこれから市場として
急激に成長をするだろうと言われていた



久保は
アジア事業統括担当取締役の肩書だったが
社員と2名で中国ビジネスを立ち上げ
中国子会社の初代総経理(※2)に就任



1年かけてようやく
会社が動き出した

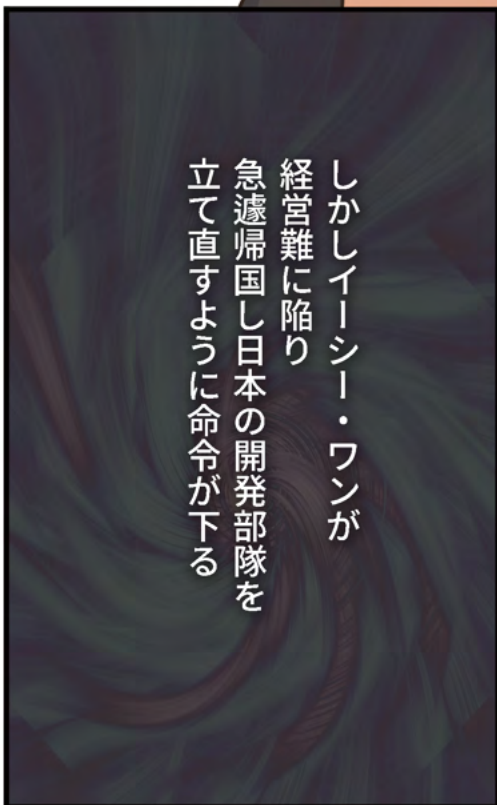
私を信用して
働いてくれている
社員のためにも
頑張るぞ!!

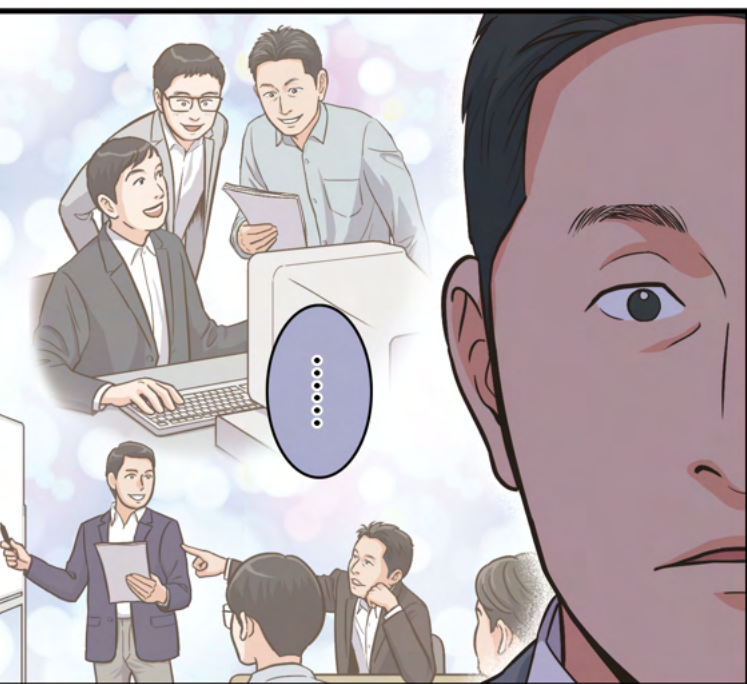


久保の果敢なリーダーシップのもと
会社はわずか2年で
130人規模へと急成長を遂げた



しかしイーシー・ワンが
経営難に陥り
急遽帰国し日本の開発部隊を
立て直すように命令が下る

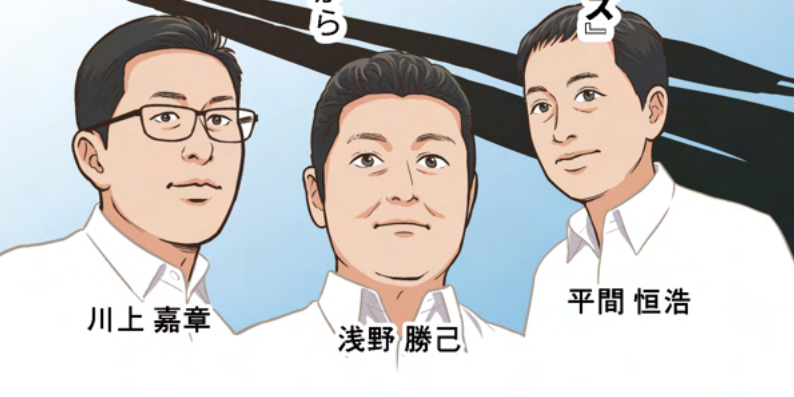




LEGEND APPLICATIONS, INC.

買収するために事業会社や
ベンチャーキャピタルなどから
約3億を調達し
受け皿となる会社を設立する
それがラキールの前身
『レジェンド・アプリケーションズ』
だった

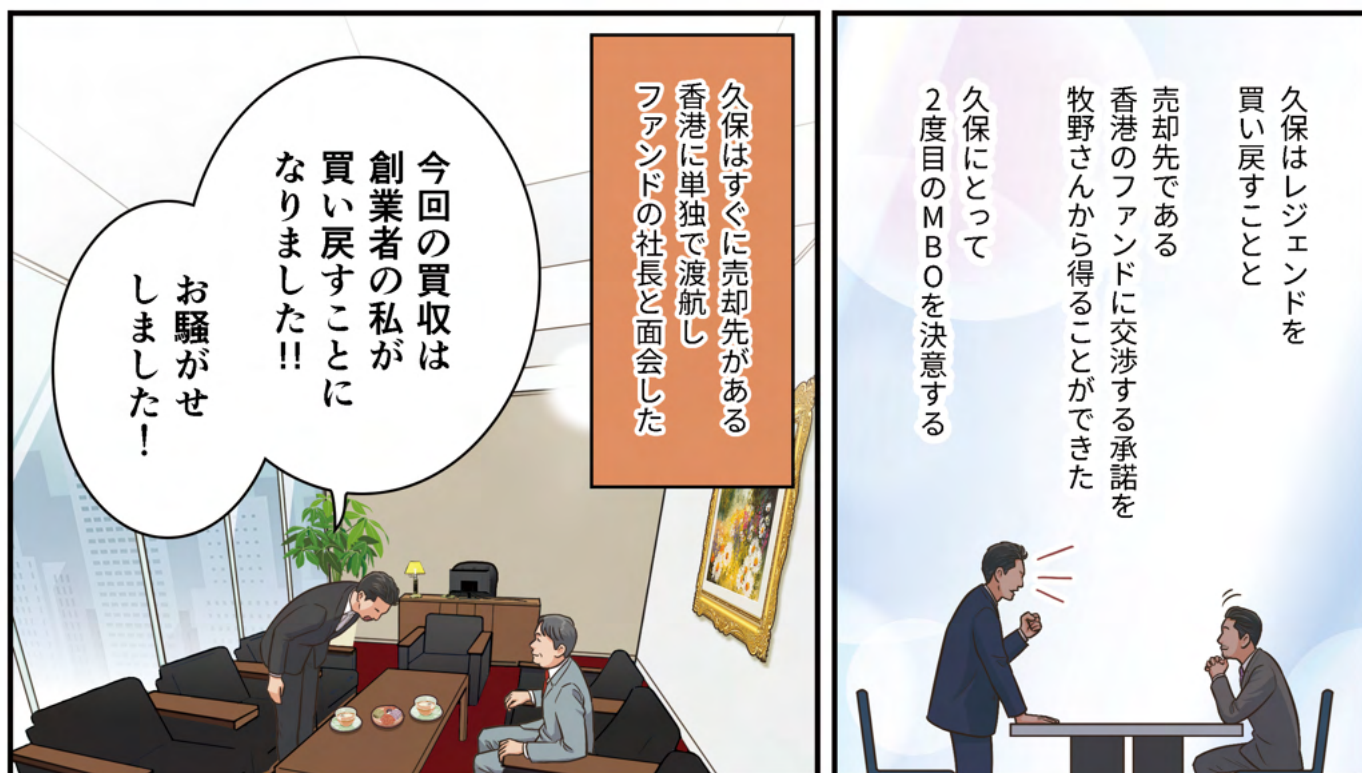
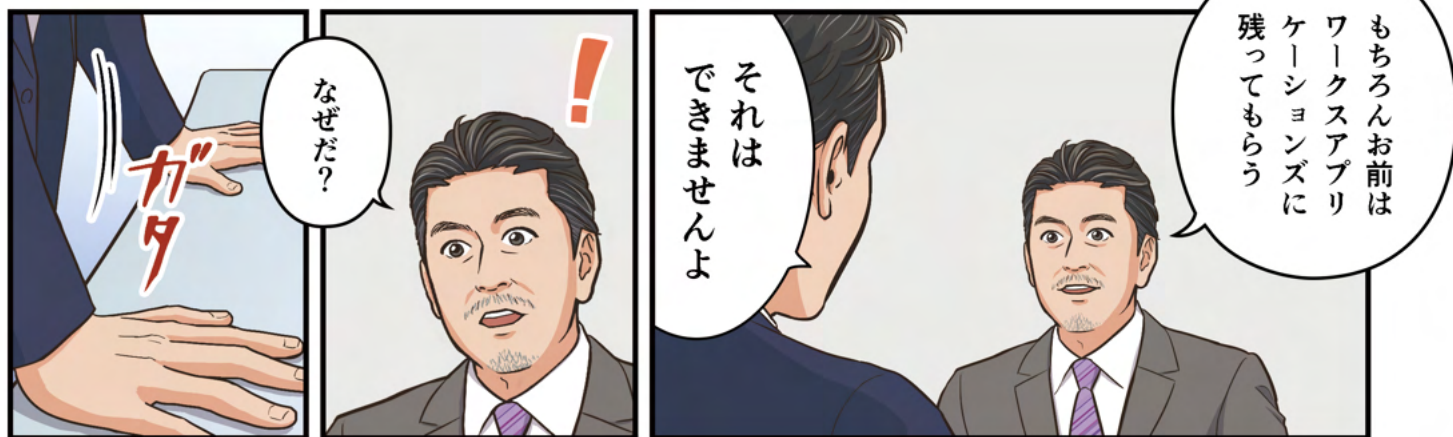
創業メンバーは
久保を追って
イーシー・ワンから
抜けた4人





※3 大手企業が使っていた人事システムCOMPANYの開発販売
※4 顧客のニーズに応じてゼロからシステム開発する事業





その後4ヶ月で
25億を調達し
2017年に
ワークスグループから独立

数か月後――

社長室にて

これから
自社製品サービスを
提供する会社に
変革したいと考えている

ええっ



クラウドにフォーカスした
ソフトウェア製品の
自社開発を目指したい

高収益型の事業じゃないと
ベンチャー企業は
価値がないと思うんだ

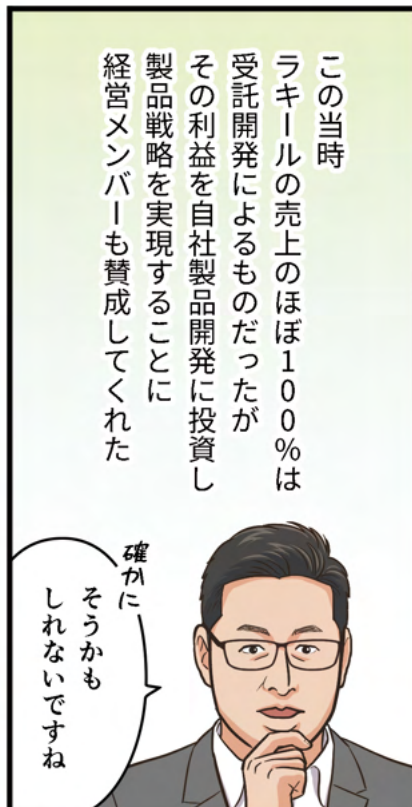
人の数に依存する
労働集約型のビジネスモデルから
知的集約型のビジネスモデルに
していきたい

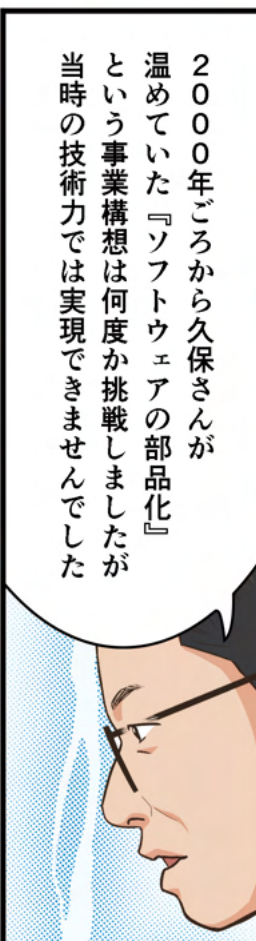
この当時
ラキールの売上のほぼ100%は
受託開発によるものだったが
その利益を自社製品開発に投資し
製品戦略を実現することに
経営メンバーも賛成してくれた

確かに
そうかも
しれないですね

次は
全社員への
説明だ

すちゃ





『ソフトウェアの部品化』とは

ソフトウェアを自動車のように部品単位で作ったり直したりできないかという自動車の部品から着想を得た



一般的にソフトウェアが古くなるとユーザーは二者択一を迫られる

① 老朽化・ブラックボックス化
(改修できないほど使いにくい状態)
したまま仕方なく使い続ける



② 老朽化・ブラックボックス化
したら捨てて
一から再構築する



さらに

『ソフトウェアの部品化』は一度作った部品を溜めておくことができる

その部品をさまざまなシステムに再利用ができる

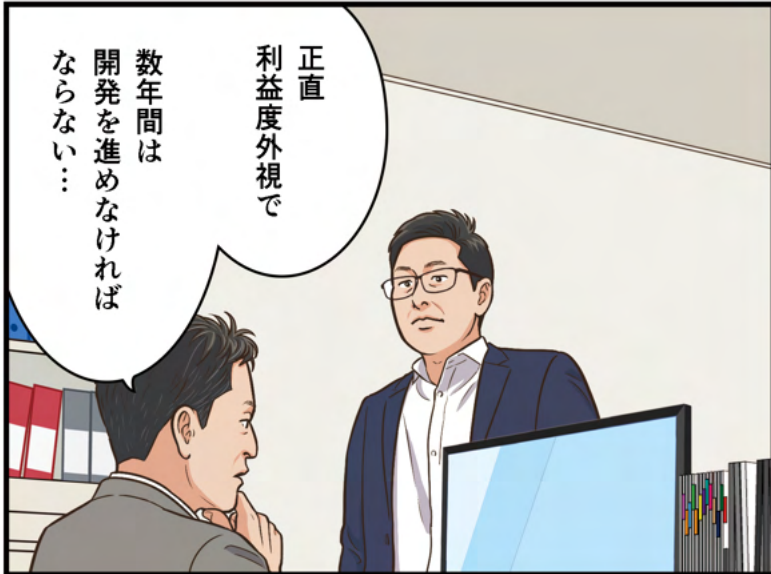


まさに『サステナブルソフトウェア』であり効率的にシステム構築するという画期的な発想だった



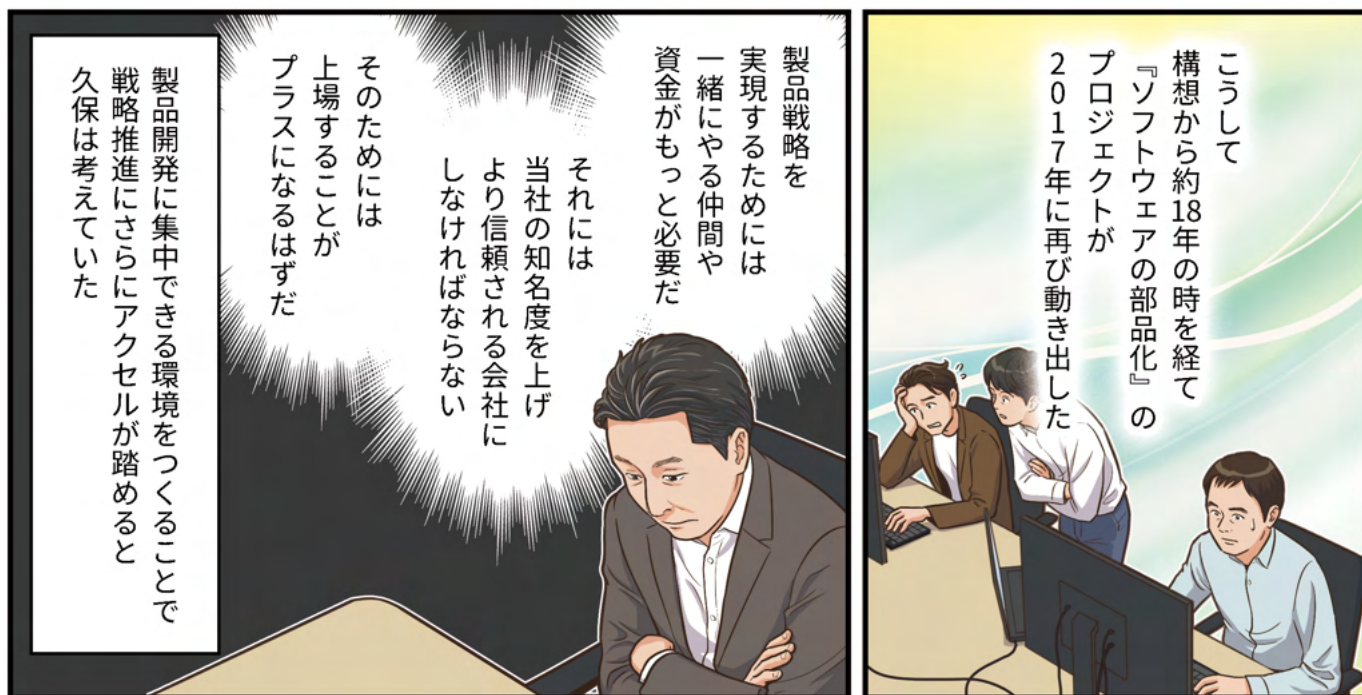
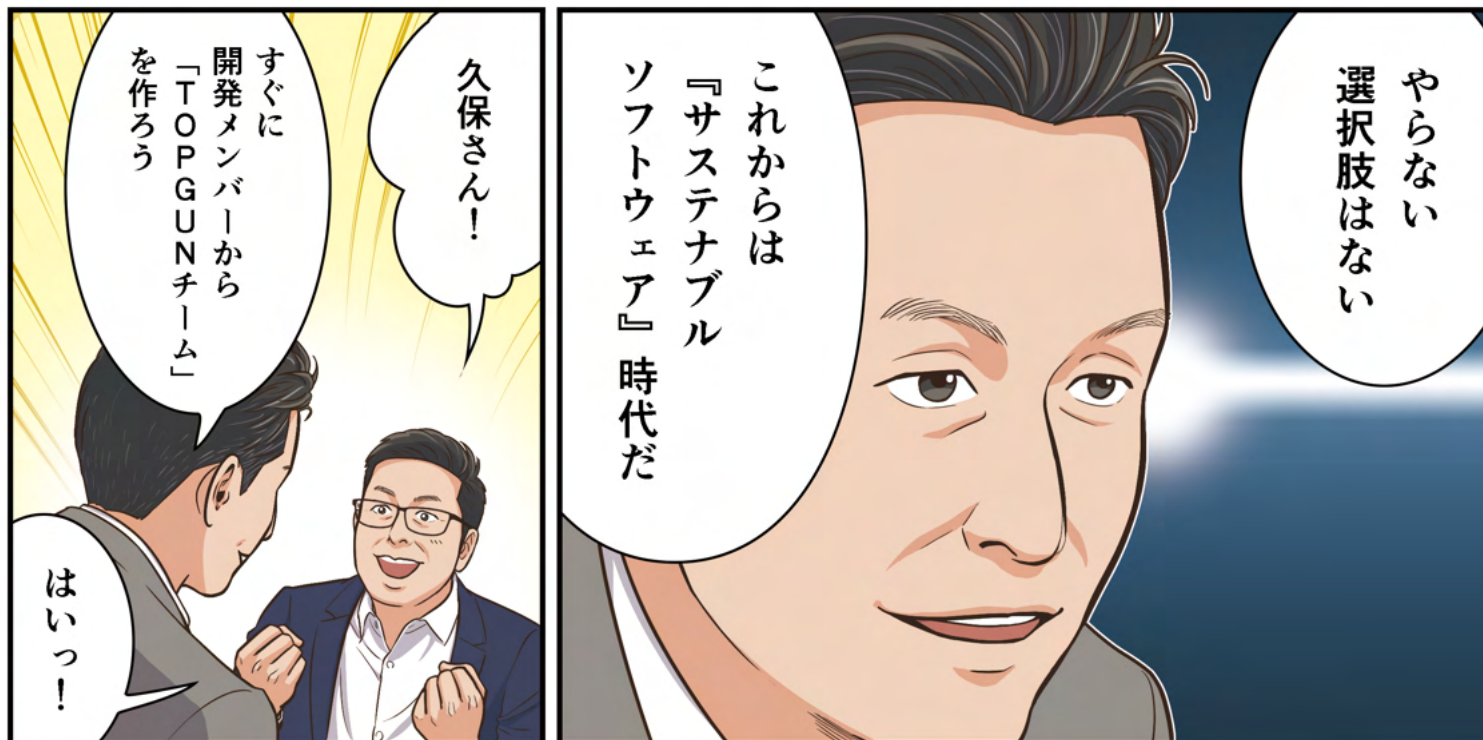
正直
利益度外視で

数年間は
開発を進めなければ
ならない...



しかし...

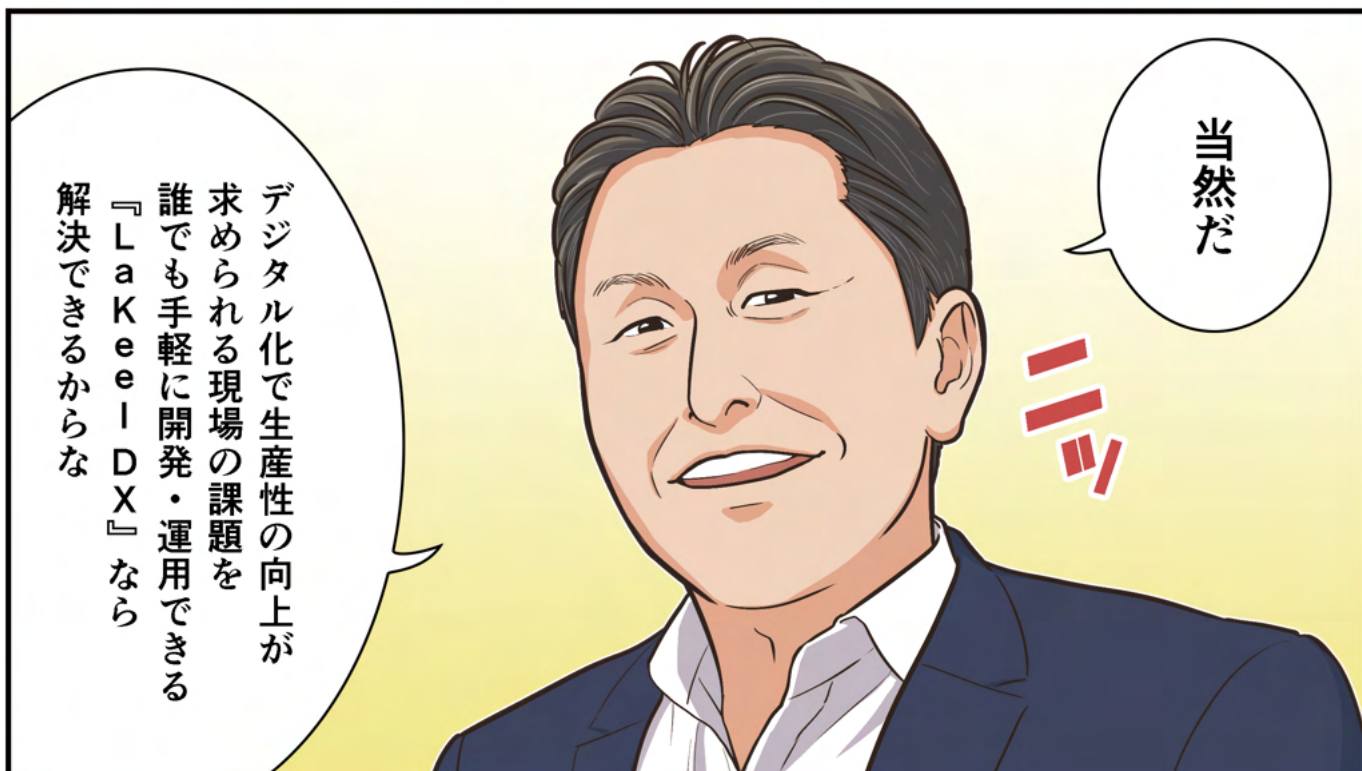
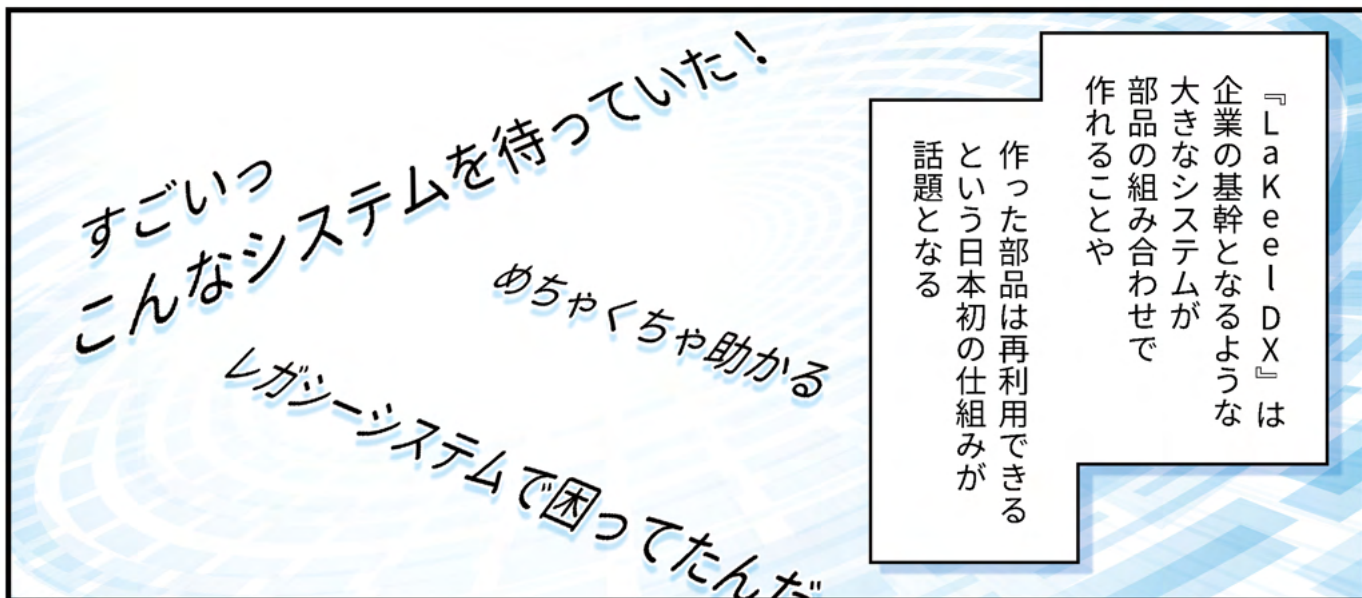




LaKeel DX

それから約4年後—

赤字覚悟の開発ではあったが
開発メンバーの情熱もあり
こたわりと執念が詰まった
『LaKeel DX』を
完成させた



『LaKeel DX』は
DXのための時間、人員、予算を
より効率的に運用することを可能にした

これまでだったら
見積りや要件定義だけで
1〜2カ月は
かかっていたのに

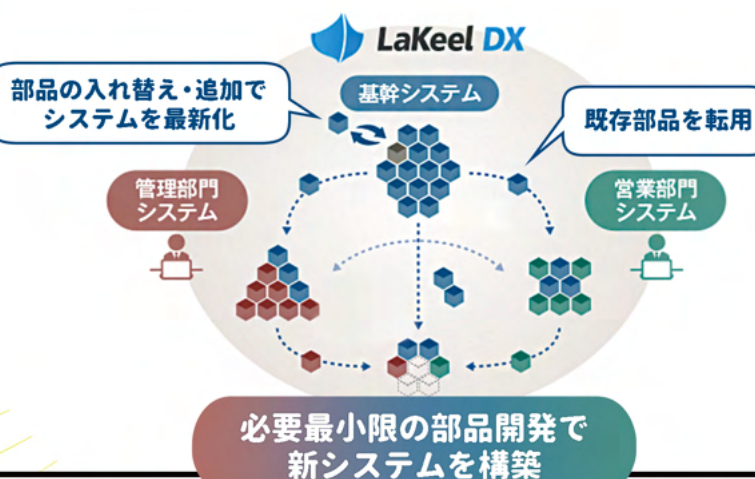
『LaKeel DX』だと
現場部門が自分で触れるので
認識ズレや無駄なやり取りが
激減したよ

従来の開発と比べて
開発期間は
およそ5分の1以下に
なりました

お客様A

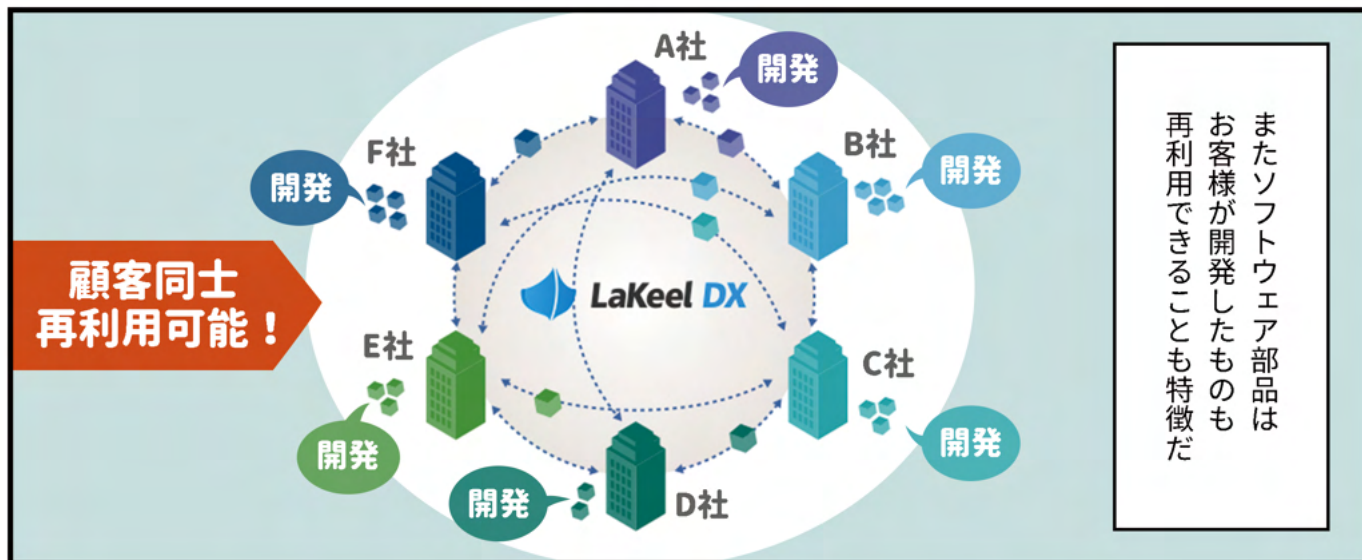
お客様B

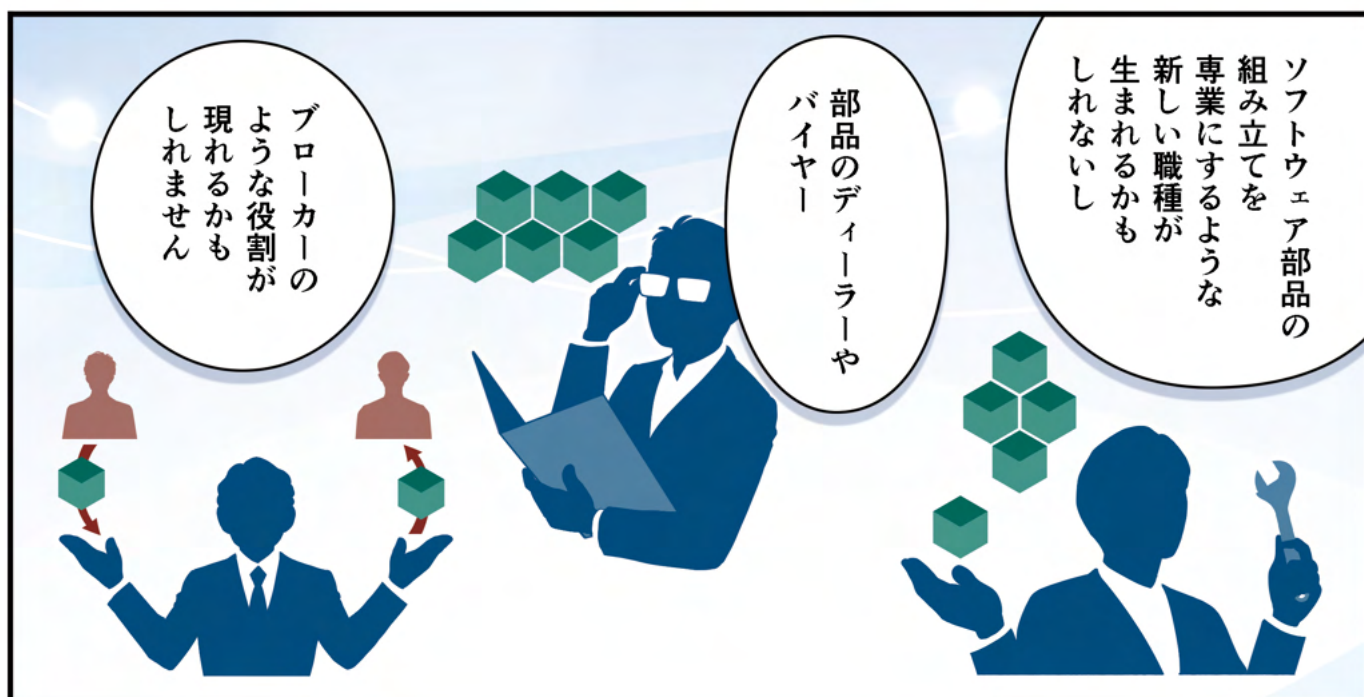
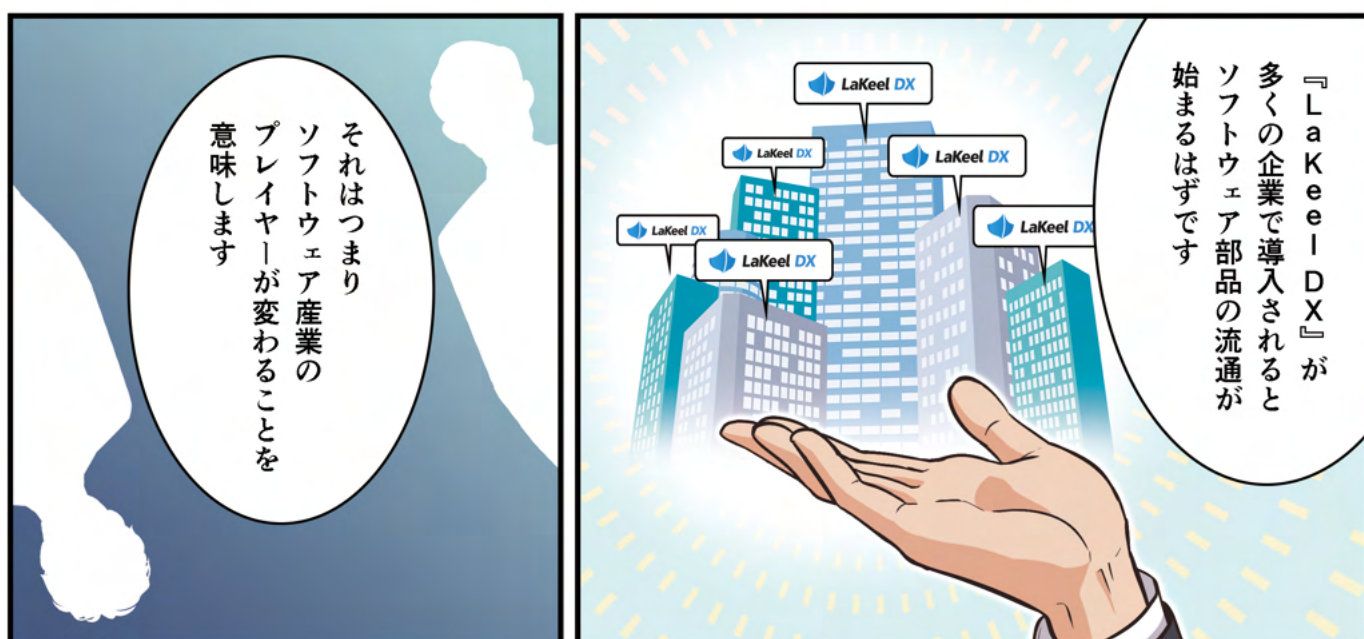
システム開発のあり方が
劇的に変わる
『LaKeel DX』は
エンジニアが不足する
日本企業にとって福音だった

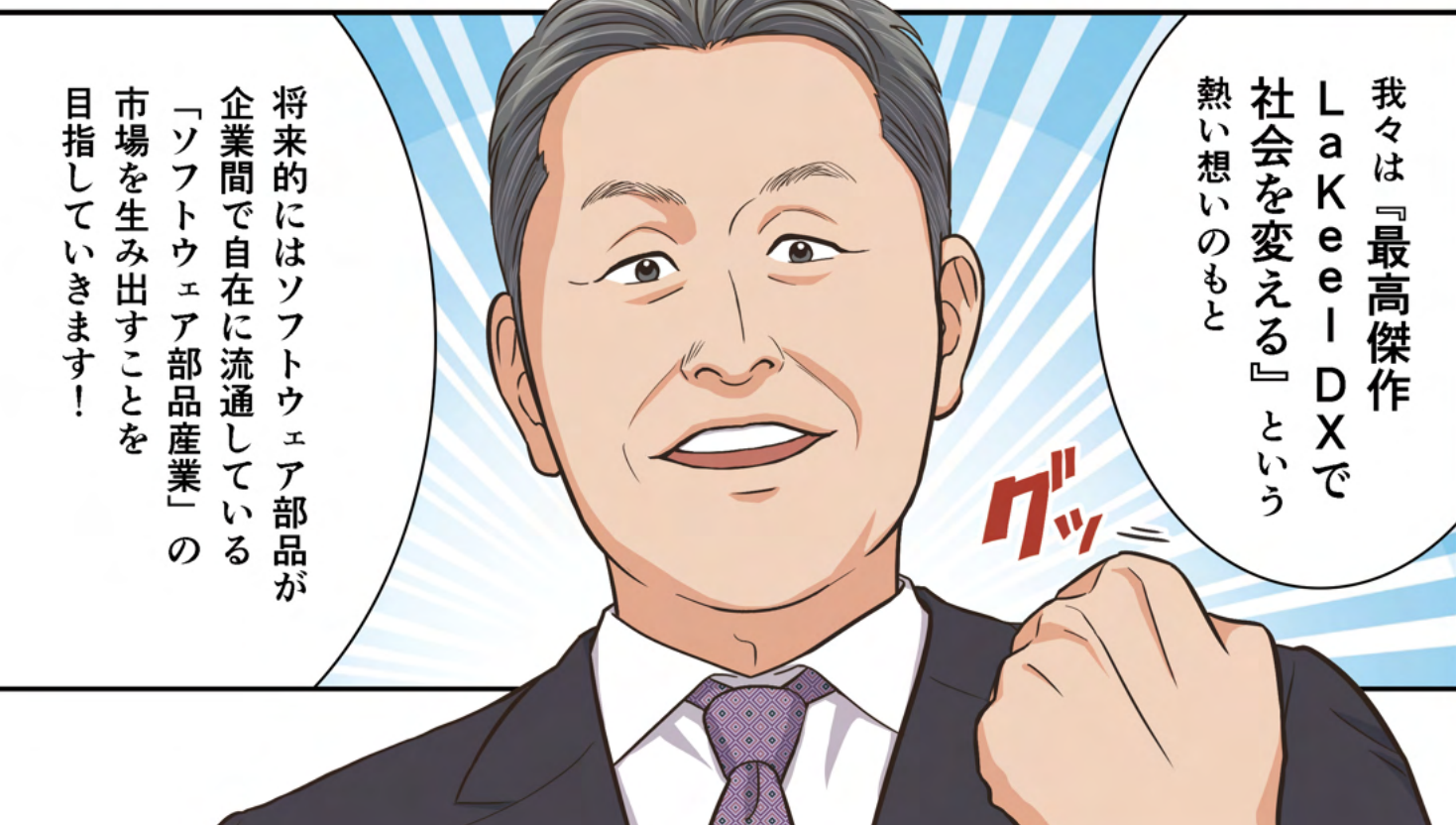
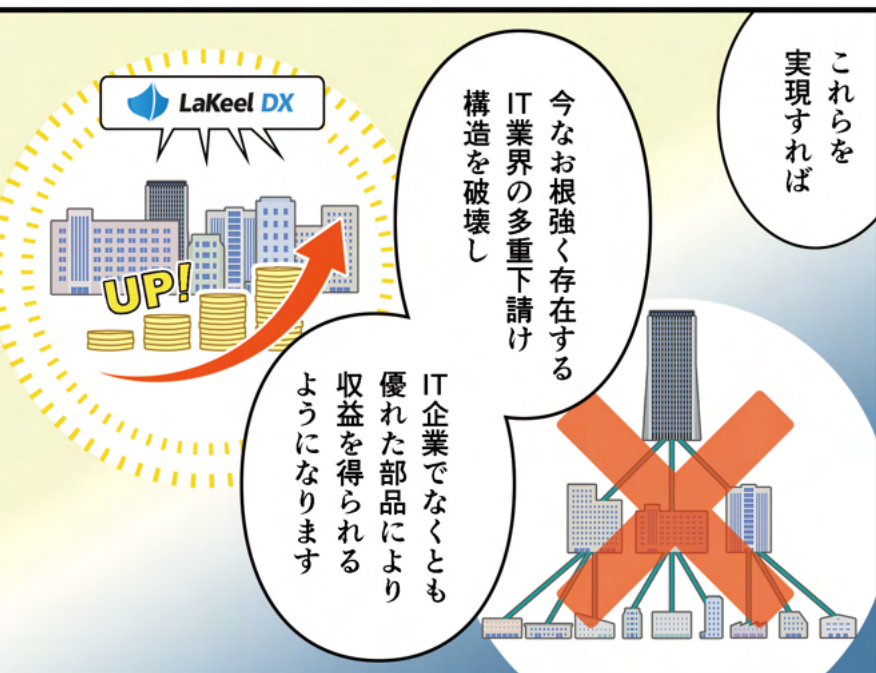


『LaKeel DX』の
進化は止まらず
部品も現在
約6000以上に増え

お客様ごとの
細かな業務要件にも
柔軟に対応可能となる







最後に

株式会社ラキールは
企業の継続性こそが
経営の最も重要な課題として
とらえています

企業活動を通じて
「顧客」「社員」「株主」

この異なる3つの
ステークホルダーに対する
責任を果たすことで

良き企業市民として
社会に貢献していきたいと
願っています

当社のロゴマークは
この3つの
ステークホルダーを
表しています



LaKeel

The Human Based Company

私達は「人と共に成長し継続する企業」を目指します

「人と共に成長し継続する企業」を目指し、以下3つの責任を履行することで**社会に貢献**する

1. 私たちは、「顧客から期待され信頼される企業」を目指します。

私たちの第1の責任は、すべての**顧客**に対するものです。

2. 私たちは、「社員から期待され愛される企業」を目指します。

私たちの第2の責任は、すべての**社員**に対するものです。

3. 私たちは、「株主から期待され評価される企業」を目指します。

私たちの第3の責任は、すべての**株主**に対するものです。

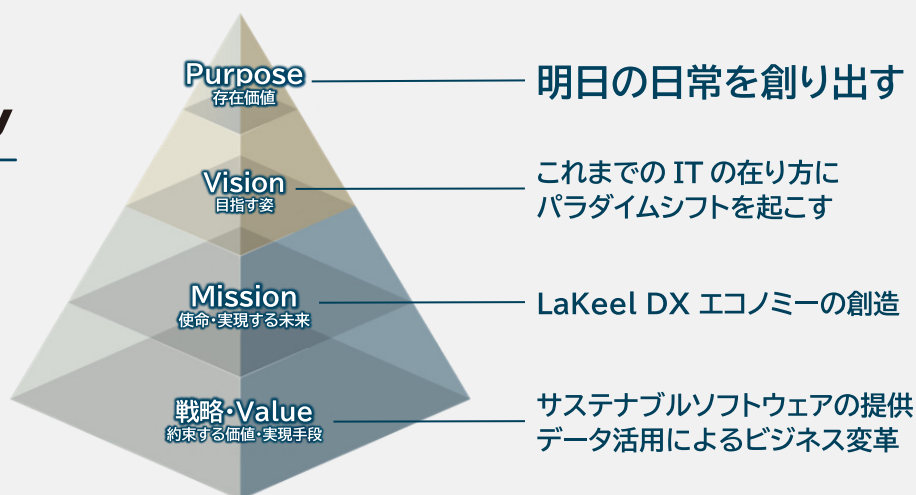
これからも
『人とのつながり』を
忘れずに

社員たちとともに
挑戦を続けていきます



ラキールが大切にしている想い

Philosophy



DX を支援するラキールのサービス

LaKeel DX をはじめとしたプロダクトサービスを中心に
4 つのサービスを提供することで、企業の DX 実現を支援します。

1

プロダクトサービス



LaKeel DX を中心とした企業向け
LaKeel 製品の提供
(ライセンス型またはサブスク型)

2

コンサルティング サービス



LaKeel 製品の導入やデータ分析における
コンサルティングサービスの提供

3

プロフェッショナル サービス



モダナイゼーション、スクラッチ開発、
システム運用や拡張サービスの提供

4

動画配信型教育 サービス



労働安全・食品衛生などの分野で
多言語対応した 600 コンテンツを備える
e ラーニングシステムを提供

